

8. 都市計画・下水道

1. 都市計画

都市計画とは、無秩序な市街化を防止し、都市の健全な発展と秩序ある整備にあわせ、効率的な都市整備を図るため、土地利用・都市施設の整備に関する計画です。

当管内では、五所川原市・つがる市・鯨ヶ沢町・板柳町・鶴田町の、2市3町において、都市計画区域が指定されています。

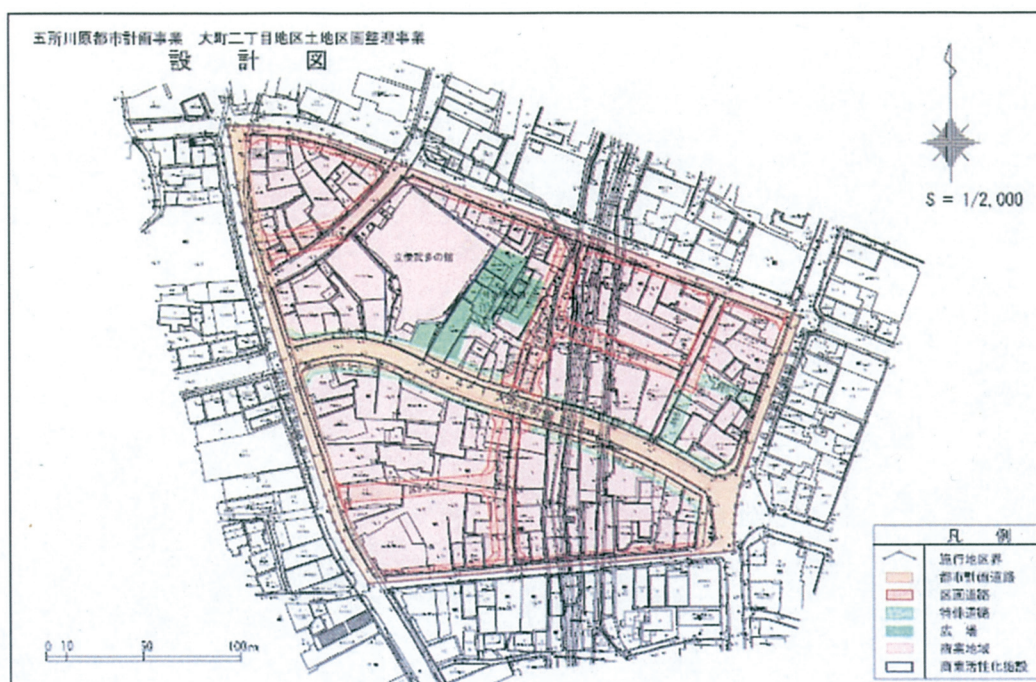
＜土地区画整理事業＞

五所川原市 大町二丁目地区土地区画整理事業

本事業は、平成16年4月にオープンした中心市街地活性化施設である「立佞武多の館」を観光資源として活かしつつ、魅力ある商業・観光拠点づくりを行うとともに、適正な誘導のための都市基盤整備を図る事業であります。

五所川原市の中心商業地として発展してきた大町商店街、本町商店街、ハイカラ通り商店街を対象地区（面積約4.4ha）として、平成16年度から事業着手し、平成18年度には「まちづくり交付金事業」を導入し、地区中央にはシンボル道路に位置づけした両側に5.5mの歩道を持つ全幅20mの市道「3・4・1大町寺町線」、「立佞武多の館」周辺には広場公園などを整備することとしており、平成25年度の完成を目指しています。

今年度は、建物移転補償及び道路築造工事、電線地中化工事、上下水道工事を行うこととしていま



<都市公園事業>

板柳町 中央アップルモール整備事業

本事業は、板柳町「緑の基本計画」に基づき、かつては町の南北を流れていたが、市街地の形成とともに廃堰となった農業用水路（鶴田枝川堰）を活用し、緑地空間や歩行者空間を確保するなど、自然豊かな住環境・水環境を整備する事業であります。

「日本一のりんごの里づくり」を目指す板柳町における自然ミュージアム「りんごの路・水の道・歴史と文化の途」をメインテーマとして、平成13年度から都市公園事業（緑道整備事業）、さらに平成15年度からは下水道事業（水環境創造事業：水循環再生型）と連携し、延長約2キロメートルにわたり、せせらぎ水路、遊歩道、植栽・緑化等の整備を進め、平成20年度に完成しました。



2. 下水道

公共下水道事業の計画と現況

平成20年4月1日現在

都市名	行政人口 (住基人口) (千人)	着工年度	全体計画		整備状況			供用開始 年度	備 考
			処理面積 (ha)	処理人口 (千人)	整備面積 (ha)	処理人口 (千人)	普及率 (%)		
五所川原市	62.4	S 49	802.0	48.3	521.5	23.4	37.5	S 59.4	(公共・特環)
板 柳 町	15.9	H 2	333.0	8.6	236.0	7.0	43.9	H 9.4	(岩木川流域関連公共)
鶴 田 町	14.9	H 4	290.0	7.4	223.4	6.1	40.7	H 11.4	(公共)
中 泊 町	14.1	未着手	—	—	—	—	—	—	
つ が る 市	38.6	H 3	388.8	11.1	323.4	8.6	22.2	H 10.4	(公共・特環)
鯉ヶ沢町	12.7	H 7	329.0	8.1	70.4	2.0	15.6	H 14.4	(公共)
深 浦 町	10.7	H 10	59.7	1.6	56.7	1.6	15.3	H 15.4	(特環)
県 計	1,430.5	34市町村	35,921.8	1,244.9	18,393.0	730.2	51.0		
市 計	1,089.4	10市	27,385.6	1,043.8	14,835.4	644.9	59.2		
町 村 計	341.2	24町村	8,536.2	201.1	3,557.6	85.3	25.0		

特定環境保全公共下水道事業（県代行）の概況

県では、財政力・技術力等が十分でない過疎市町村の下水道事業を支援するために、市町村に代わって処理場、幹線管渠等の根幹的施設の建設を行うとともに費用の一部を負担する「都道府県代行制度」

を活用し、過疎市町村の下水道を整備しています。

深浦町（旧岩崎村）では、平成10年度に浜野、玉坂、丸山、脇ノ沢、松原、平ノ館の6地区を対象として「特定環境保全公共下水道事業」に着手し、平成14年度は沢辺地区を加え実施しました。

このうち主要幹線管渠及び終末処理場（岩崎浄化センター）工事は青森県が代行し、枝線の面整備を深浦町が工事を進め、平成15年4月1日供用開始しました。

つがる市（旧木造町）では、平成3年度から公共下水道事業に着手し、平成10年4月に供用開始しましたが、平成9年度にはつがる市（旧車力村）富范地区において「特定環境保全公共下水道事業」に着手し、主要幹線管渠及び終末処理場（富范浄化センター）工事は青森県が代行し、枝線の面整備はつがる市が工事を進め、平成15年度4月1日供用開始しました。